

入院診療計画書：救急外来経過観察パス

説明医師： ⑨

担当看護師：

患者氏名： 様

	入院当日	入院翌日
予定	医師の診察の後、入院の継続か、退院かが決まります。 (24時以降に入院された方は、この日に退院となる可能性がありますが)	医師の診察の後、入院の継続か、退院かが決まります。
緊急対応	症状の再発、検査の異常などにより緊急に侵襲的検査を含む画像検査や検査や治療を行う場合があります。	症状の再発、検査の異常などにより緊急に侵襲的検査を含む画像検査や検査や治療を行う場合があります。
注射	外来からの点滴を継続します。 	点滴を継続します。 
処置	必要に応じてモニター心電図を装着します。 必要に応じて酸素やお薬を投与します。   	必要に応じてモニター心電図を継続します。 必要に応じて酸素やお薬を投与します。   
観察	看護師が血圧や血液中の酸素濃度を測定します。 また、症状についても伺います。  	看護師が血圧や血液中の酸素濃度を測定します。 また、症状についても伺います。  
検体検査		採血をすることがあります。 
食事・飲水	緊急の検査、治療を行う可能性があるため、食事は食べられません。飲水は可能です。	緊急の検査、治療を行う可能性があるため、食事は食べられません。飲水は可能です。
	特別な栄養管理の必要性 無  	 
体動	ベッドで安静に過ごしてください。トイレは病室内のトイレをご使用ください。  	指示があるまで病室から出ないでください。トイレは病室内のトイレをご使用ください。  

【経過観察入院に対するご説明】

今回、受診のきっかけとなった症状に対して、原因として考えられる疾患のスクリーニング検査を行いました。緊急での治療を必要とするような異常を認めませんでした。高齢者は免疫や自律神経の働きが低下しており、結果として採血検査や生理所見（血圧・心拍・体温など）に異常が出現するのが遅いことが知られています。救急外来での検査で異常が無くても、重大な疾患が隠れていないとは限りません。また体力のある方では問題とならないような状況でも、加齢により異常に対応する機能（予備能）が低下しているため、急激に症状が悪化し致命的な経過をたどる場合もあります。現時点の状況から重篤な経過をたどる可能性は決して高くはありませんが、上記に示した特徴から、早期に異常を発見し適切に対応出来るよう入院により観察をさせていただきます。定期的に看護師による観察（血圧・心拍・体温など）を行います。睡眠の妨げになりますがご容赦下さい。異常を認めた場合には当直医が対応し、必要に応じて専門医が対応します。この場合緊急の侵襲的検査や治療が必要となる場合があります。また異常を認めなかった場合でも、翌日専門医が診察し、その後退院可能か入院継続かなどの方針を決めることとなります。なお、緊急の治療（手術を含む）が必要となる場合がありますので、翌朝まで絶食とさせていただきます。また定期的な観察が必要であることから、排泄時以外はベッド上安静となります。

※ 上記内容について説明を受けました。 年 月 日：患者様氏名(代理者氏名・続柄)